

日本語自然会話の「引き継ぎ」現象における挿入要素の対称性

—— 単文レベルを対象として ——

The Symmetry of Inserted Elements in the ‘Hikitsugi’ Phenomenon within Natural Japanese Conversations: A Case Study of Simple Sentences

グエン・ティ・ハー*

NGUYEN THI HA

(要旨)

本稿は、日本語の二者自然会話における共同的発話現象の一つである「引き継ぎ」現象に焦点を当てている。引き継ぎ現象は、話者Aが開始した発話が、話者Bの発話によって統語的に継続される言語現象である。本稿では、単文レベルを対象に、様々なパターンの会話データを挙げるとともに、引き継ぎの生起と話者交替場所に現れる挿入要素との関係を究明した。その結果、挿入要素が特定の順序で現れ、その生起位置に対称性が存在することが明らかになった。また、この挿入要素の対称性が、引き継ぎ現象を起こしやすくしている要因となっていることも示唆した。

【キーワード】 話者交替 共同発話 引き継ぎ現象 挿入要素 対称性

1. はじめに

会話は、会話参加者が話者交替を繰り返しながら発話することによって展開されている。基本的には、話者A(話し手)が開始した発話が終わってから、もう一人の話者B(聞き手)が次の発話を開始するという順番となっている。理論的には、順番交替システム (turn-taking system) において、最初の発話順番 (ターン (turn)) が終了する際、その順番が「完了可能な場所」つまり「順番移行に適切な場所」¹ (transition relevant place: TRP) に達し、発話権が次の話者に移る、という話者交替システムが提唱されている (cf. Sacks, Schegloff & Jefferson 1974:703 ; 西阪訳2010:24-25)。しかし、自然会話を観察すると、次のような場合はSacks, Schegloff & Jefferson(1974) が提唱した話者交替と異なっている。

(1) A : いやでも、えっ今はあの一 (ポーズ0.7)

B : 年金生活者です、もう。

A : へー。なんだか、お話を聞いたたら、すごいアクティブな活動をされているなあとい

* 山口大学大学院東アジア研究科 (The Graduate School of East Asian Studies, Yamaguchi University)

う感じですね。

(1) では、話者Aの「～今は、あのー（ポーズ0.7）」の後に、話者交替が起こり、話者Bの「年金生活者です、もう」が続いている。二人の話者の発話が組み合わさると、「今は年金生活者です、もう」で、一文となっている。すなわち、話者交替が起こっても話者Aの発話がまだ「順番移行に適切な場所」に達していない。そして、話者交替後、話者Bが新しい発話を始めず、話者Aが開始した発話を続け、一文を完了させている。

(1) のような現象は、二人の会話参加者が共同的に一文を作る現象（共同的発話現象）であり、「引き継ぎ」と呼ぶことにする。

基本的な話者交替において、話の終わり・沈黙・下降のイントネーションなどによって示されるTRPで、話者Aが開始した順番が完了し、話者交替が起こる。引き継ぎにおいては、TRPは話者Aの発話がそこで完了してもよい場所ではなく、引き継ぎが生起する可能な場所となるだろう。例えば、(1) の冒頭の話者Aの発話では、副助詞「は」の後に話者交替が起こるため、「は」の後には引き継ぎが生起する可能な場所となりうる。そして、話者Bに発話が交替する話者交替場所に、「あのー」とポーズなどの要素が現れていることがある。このような要素が引き継ぎ現象とどのように関連しているのかを、明らかにすることが、本稿の目的である。

2. 先行研究

日本語の共同的発話に関する先行研究では、それを指す用語は様々である。水谷（1993）は、「共話」という用語を用いており、「ひとつの発話を必ずしもひとりの話し手が完結させるのではなく、話し手と聞き手の二人で作っていくという考え方にもとづいた形である」と定義している（cf. 水谷1993:6）。串田（2002:38）は、「一人の発話が完結しうる時点を迎える前に、もう一人がその発話に統語的に連結するようにデザインされた発話を行う」という現象を「引き取り」と呼んでいる。Hayashi（2003:1）は“joint utterance construction”（共同発話構築）²について“a speaker produces an utterance that is designed to grammatically continue (and sometimes complete) an ongoing utterance initiated by another speaker”（ある話者は、別の話者によって開始された進行中の発話を文法的に継続させる（あるいは時には完了させる）発話を行う（筆者訳））と定義している。宇佐美（2006:107）は、「共同発話文」を「複数の話者によって完結される1つの文」と定義している。異なる用語を用いているが、いずれも二人の会話参加者が共同的に一つの発話（または一つの文）を作り上げる現象を指している。ただし、これらの研究においては、重複して生起するもの（同時発話）や反復して生起するもの（反復発話）も研究対象とされている。話者交替時点が異なるもの異ならないものを区別せず、全て同じように扱っているという問題点が残っている。

共同的発話の成立についても、様々な立場がある。例えば、水谷（1993:6）は、「共通の理解」を前提とする「諸形式」（ので、から、など、とか等）と関連があると主張している。しかし、筆者の観察によると、「共話」は、水谷（1993）が指摘している「諸形式」に限定しないようである。(1) の副助詞「は」以外に、格助詞「が」「で」「に」「を」など、様々な文中の位置に生

起ることが多い。次に、串田(2002)では、「引き取られる発話」が行われるには6つのシーケンス環境があるが、その内、「共同追加想起の促し」といったシーケンス環境では、先行発話の直後に「さー」とポーズが現れる場合を分析している。次に、言語データを引用する³。

②「共同追加想起の促し」

- 1A: はー(。)張る前やこれ
 → 2B: そうだって(。)あたしあれやったのさー(0.6)
 ⇒ 3A: 来る直前だもんね
 4B: そうそうそう(0.7)このー(0.7)あと(0.4)ぐらい?
 5A: うん

(串田2002:49)

ここでは、話者が交替するときに現れる「さー」とポーズが「[すでに想起を示した者]であるAが続きを引き取って発話する機会を与える」と述べている(cf.串田2002:49)。Hayashi(2003)では、co-participant completion(共-参加者による完了)⁴が行われるには、①“completing utterance”⁵、②“independent knowledge”(独自に知識を持っていること)⁶、③“postposition-initiated utterances”(助詞で始まる発話)⁷、④“multi-clausal sentential units”(複合的ターン構成単位)⁸等、様々な角度から分析している。とりわけ、話者Aの従属節と話者Bの主節の間に現れる“lapse of time-pauses and/or ‘filled’ pause”(ポーズやあいづちなど)について分析し、それらの要素がco-participant completionを行う機会を与えると述べている(cf. Hayashi 2003:79-86)。以上のように、串田(2002)、Hayashi(2003)は話者交替場所にポーズやあいづちの存在や役割を指摘しているが、一定の文構造しか解釈していない。なぜこれらの要素は共同的発話が起るときに現れているのか、またこれらは共同的発話の生起に影響を及ぼすかどうかについては、まだ明らかになっていない。

3. 本稿での考え方

前節で先行研究において共同発話現象の対象範囲が異なるということを指摘したが、定義では二人の話者の発話が統語的に継続するという共通点がある。引き継ぎも共同的発話現象の一つであるため、これを次のように定義しておく。

- (2) 引き継ぎ：話者Aと話者Bの二者会話において、話者Aの発話の途中で、話者Bが話者Aの発話を引き取って継続するという言語現象。両話者の発話が繋がると、統語的に一文となる。

ここで言う「統語的に一文になる」とは、「命題」と「モダリティ」の2つの層から構成される文になるということである(cf. 仁田1991)。日本語の文では、統語的に、命題となる要素とモダリティとなる要素がこの順に生起する。命題は述語成分とそれが要求する格成分から構成される

が、会話においては、トピックや情報の新旧、あるいは会話参加者の共有知識などによって、しばしば格成分が省略されることがある。実際に、5節の会話データにおいても起こっている。ただし、述語成分とモダリティは、文においては基本的に省略されない。従って、話し手の発話文において、これらが省略された場合には、必ず聞き手が発話することになる。

ここで、引き継ぎの対象範囲を明示するために、引き継ぎとはみなさない場合を挙げておく。先行研究で共同的発話とされているものは引き継ぎの対象外とする。その中の一つ目は同時発話である⁹。

(3) F: あ、なんか、専攻とかは [なくて]。

E: [ないね], はい。

(3) では、Fの「なくて」とEの「ないね」が同時に発話されている。先行研究において、Fの「専攻とかは」といった発話部分はEの「ないね」が組み合わさり、「専攻とかはないね」で一文となるため、共同的発話とされている。しかし、このような同時発話は話者交替が完全に終わっていないため、本稿では引き継ぎと捉えない。

二つ目は反復発話である。

(4) G: 使わないからとか言ったら、勉強する、気が

H: 気が失せる。[(hh)]。

(4) では、話者Hの発話の冒頭（「気が」）が、話者Gの発話の一部を繰り返している。このような場合は、先行研究では共同的発話として扱われているが、先行発話と後続発話が統語的に連続しないため、本稿では引き継ぎと捉えない。

次に、引き継ぎ現象においては、話者交替場所も引き継ぎが起こる位置であり、そこにしばしばポーズや「あー」などの要素が見られる。これらの要素を「挿入要素」と呼び、引き継ぎが起こる位置（話者交替場所）に現れる感動詞類（感動詞、応答詞、フィラー、間投詞「ね」・「さ」）、非言語表現のポーズ、笑い声などを指す。挿入要素は、それ自身命題内容を持たず、文の一部として挿入されても、文の構造を変更させないものである。ここで言う間投詞「ね」・「さ」は文末で用いられる終助詞ではなく、文中で間投詞として使用されるものを指す。従って、本稿で取り上げる感動詞類には間投詞「ね」・「さ」も含まれる。挿入要素については5節と6節で詳述するが、挿入要素は引き継ぎ現象と大きな関連性があると考えている。

また、引き継ぎ現象は、単文だけではなく複文においても観察された。ただし、本稿では単文レベルの引き継ぎのみを対象にする。

最後に、先行研究では、会話参加者の数にかかわらず三者または四者の会話を対象とする研究が多い。会話参加者が多いほど、会話の性質が変わるため、本稿では、まず基本的な二者自然会話における引き継ぎ現象を解明していく。

4. 会話調査

本研究で使用するデータは、筆者自らが収集した日本語の自然会話である¹⁰。2018年8月から2019年4月の間は18本、2022年10月から2023年7月の間は6本、合計24本（約630分）である。インフォーマントは日本語母語話者の男女28名であり、その内訳は60代の社会人（7名）、学生（21名）である。

調査では、次の3つの会話場面を設定した。初対面の世代別（20代と60代）、初対面の同世代（20代）、友人同士（20代）である。それぞれ二人の話者に静かな部屋で25～30分程度自由に会話してもらい、それを録音した。なお、それぞれの会話に筆者は同席していない。

会話データや分析に用いた記号は、以下の通りである。

- 挿入要素
- 引き継ぎが起こっている発話
- [] 発話が重なる部分を示す。
- { } { } の中は聞き手の特別な意味を持たないあいづち、笑いなどを示す。
- 日本人の名前や地名などの固有名詞を示す。
- ↑ 上昇イントネーションを示す。
- (hh) 笑いを示す。
- (0.5) ()の中の数字は秒単位のポーズを示す。例えば、(0.5)は0.5秒のポーズを示す。なお、ポーズについては音声ソフト（WavePad）を用いて測定している。広実（1994）を参考にし、0.2秒以上の無音声区間をポーズとする。
- | 話者交替が起った位置を示す。
- … 何らかの発話を示す。
- p ポーズを示す。
- V 動詞を示す。
- N 名詞を示す。
- Adj 形容詞・形容動詞を示す。
- Adv 副詞を示す。
- 感 感動詞類を示す。

本稿で挙げる言語データを次のように表記する。

通し番号	発話者	発話内容
01244	YF01:	いやでも、えっ、今は [□] あのー [□] (0.7)
01245	OF01:	<u>年金生活者です、もう。</u>

通し番号のうち、最初の2桁の数字はデータの番号であり、次の3桁の数字は発話の通し番号である。

5. 分析

ここでは、引き継ぎが起こるときに、話者交替場所に挿入要素が現れるかどうか、どのような挿入要素が現れるかについて観察する。そして、その挿入要素の生起により、引き継ぎと挿入要素との関係を究明する。

記述にあたっては、まず挿入要素が現れる場合と現れない場合に分ける。次に、前者の場合を、挿入要素の現れる位置の違いによって「話者交替前」「話者交替後」「話者交替前後」に分け、挿入要素の少ない順に見ていく。

5.1. 話者交替場所に何の挿入要素も現れない場合

このパターンは、話者交替場所に何の挿入要素も入らず、話者Aが開始した先行発話の直後に話者Bの発話がすぐ続いている。(5)が挙げられる。

- (5) 01084 YF01: でも、意外とあの一、〇〇（県名）の出身の方が、通学時間が自転車で、ちょっと長いですね。
- 01085 OF01: 長いです。はい。
- 01086 YF01: 下宿するの方が近いです。(hh)
- 01087 OF01: 近いです。そうなんですよ。
- 01088 YF01: (hh) 意外と実家生のの方がまあ親もいるし、もうあまり遊びに
- 01089 OF01: 行けないしね。
- 01090 YF01: (hh)
- 01091 OF01: 家事はするしね。

(5)を見ると、01088YF01の「～遊びに」の後に話者交替が起こり、01089OF01がYF01の発話を続けている。両話者の発話が組み合わせると、「意外と実家生のの方が、親もいるし、あまり遊びに行けないしね」というように、一文になっている。即ち、引き継ぎが起こっている。ここでは、話者交替場所に何の挿入要素も入らず、「～に」の直後に引き継ぎが起こっている。従って、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

- (6) ...Vに | Vないしね。

ただし、筆者の調査では、このパターンの会話データは(5)しか観察されなかった。

5.2. 話者交替場所に挿入要素が現れる場合

5.2.1. 話者交替前の場合

ここでは、話者交替が起こる直前、すなわち先行発話の直後に挿入要素が現れる会話データを分析する。

まず、話者交替前にポーズだけが現れる会話データを観察する。(7)を見られたい。

- (7) 17028 YM02: で、今までは教科教育専門の {はい} その教科をもっと深く、あの一、学んでいきましょう {はい} まー、国語なら国語 {はい} 算数の教え方とか {あー} そうゆうのをやってみましょうみたいな {はい} 感じだったんですけど、
- 17029 YM01: はい。
- 17030 YM02: 今教員の質自体は(0.3)
- 17031 YM01: 下がる。
- 17032 YM02: 下がっているみたいな感じで {あー}、ミドルリーダーを育成するための {はい} なんか、大学院になるらしいんです。...

(7) を見ると、17030YM02の「今教員の質自体は」の後に話者交替が起こり、17031YM01の「下がる」が続いている。その結果、「今教員の質自体は下がる」で一文が構成させている。ここで注目すべき点は、「は」の直後にポーズが挿入されていることである。その直後、引き継ぎが起こっている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

- (8) ...Nは p | Vる。

話者交替前にポーズだけが現れる統語環境は、「[～は]の後」以外に、「[～が]の後」、「[～も]の後」、「[～の]の後」、「[～で]の後」、「[～に]の後」、「[～を]の後」、「名詞の後」、「副詞の後」なども頻繁に観察されている。

次に、話者交替前にポーズと感動詞類が現れる会話データ (9) を挙げる。

- (9) 05271 YF04: あと、もう一個、社会系↑
- 05272 YF02: 社会系は(1.2) なんっていう
- 05273 YF04: 一番役に立ちそう。
- 05274 YF02: (hh) そうですね。はあ。本当、社会のことならなんでもいいみたいな。

(9) を見ると、05272YF02の「社会系は」の後に話者交替が起こり、05273YF04の「一番役に立ちそう」に引き継がれている。その結果、「社会系は一番役に立ちそう」という一文が構成されている。ここでは、「社会系は」の直後にポーズ、次に感動詞類「なんっていう」が挿入されている。そして、この直後に話者交替が起こっている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

- (10) Nは p なんっていう | ...Vそう。

次の会話データは、話者交替前にポーズと感動詞類が現れるものであるが、(9) と異なり、挿入要素の順序が逆になっている。

- (11) 01241 OF01: ね。一番こー，ちょっと何人か留学生の方とお知り合いになって，(hh)
全てこー，ね，ちょっと，国際的な感覚かなと思って。
01242 YF01: (hh)
01243 OF01: はい。
01244 YF01: いやでも，えっ今はあの一 (0.7)
01245 OF01: 年金生活者です，もう。
01246 YF01: へえ。なんだか，お話しを聞いたたら，すごいアクティブな活動をされているなあという感じですね。

(11)においては，01244YF01の「今は」の後に話者交替が起こり，01245OF01の「年金生活者です，もう」が引き継がれている。両話者の発話が結びつくと，「今は年金生活者です，もう」で一文が形成されている。ただし，「今は」の直後に感動詞類「あの一」が挿入され，次に，ポーズが挿入されている。そして，その直後に話者交替が起こっている。ここで留意すべきなのは，助詞「は」の直後に挿入される挿入要素が，感動詞類「あの一」，ポーズという順序であるという点である。挿入要素が複数現れる場合，順序が自由なのかどうかについて議論する必要がある。この点は6節で扱う。現時点では，この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

- (12) ...Nは あの一 p | ...Nです...

次の会話データ (13) も (11) と同様のパターンであるが，感動詞類「まー」が生起する。

- (13) 15504 YF10: (hh) 11～18まででまず第一弾，帰省第一弾。
15505 YF12: 2回は帰る確実に。
15506 YF10: 第二弾はまー (0.3)
15507 YF12: 8月と9月。誕生日に帰ろうかな。
15508 YF10: や，いいやろー。

(13) では，15506YF10の「第二弾は」の後に話者交替が起こり，15507YF12がYF10の発話に引き継がれている。その結果，「第二弾は8月と9月」で一文となっている。これは「です・だ」が省略された文である。ここでは，「第二弾は」の直後に感動詞類「まー」，次にポーズが挿入され，この直後に話者交替が起こっている。従って，この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

- (14) ...Nは まー p | ...N。

次に，話者交替前に間投詞「さー」がポーズと共に生起する会話データ (15) を挙げる。

- (15) 03327 YF01: まあアラハタですから。見たことない↑売ってないか↑
 03328 YF03: ううん。いや、なんか、ジャムもさー (1.0)
 03329 YF01: 嫌い↑
 03330 YF04: あまり買わん。お父さんがさー、使うんだよね。

(15)を見ると、03328YF03の「ジャムも」の後に話者交替が起こり、03329YF01の「嫌い↑」に引き継がれている。両話者の発話が繋がると、「ジャムも嫌い↑」という一文が構成されている。ここでは、「～も」の直後に間投詞「さー」及びポーズがこの順に挿入される。そして、その後に話者交替が起こっている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

- (16) ...Nも さー p | Adj ↑

次は、間投詞「ね」がポーズと共に共起する会話データ (17) が挙げられる。

- (17) 13417 OF04: そこ理解してくれる人がいればいいけど。
 13418 YF10: 確か。
 13419 OF04: あもう、ある程度、自分の夢をね (1.0)
 13420 YF10: やりたいですね。
 13421 OF04: うん。私の話ばかり、お友達なんかどうなの↑

(17) では、13419OF04の「～自分の夢を」の後に話者交替が起こり、13420YF10の「やりたいですね」に引き継がれている。両話者の発話が組み合わさり、「ある程度自分の夢をやりたいですね」で一文となっている。ここでは、「～を」の後に、間投詞「ね」とポーズが挿入されている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

- (18) ...Nを ね p | V たいですね。

次に、話者交替前に3つの各種の挿入要素が現れるものを挙げる。(19), (21), (23), (25) が挙げられる。まず、(19) を見られたい。

- (19) 02313 YF01: そう。あの一、保険屋さん^に電話したら、警察にも言わんでいいって言って、いや、別に事故でもないよね。
 02314 YF02: ああ。
 02315 YF01: 単純になんかあの一 (0.6)
 02316 YF02: 衝突。
 02317 YF01: なんだろうね、ただ単に自損↑自分で事故して {hh} 自分だけみたいな。

(19)を見ると、02315YF01の「単純に」の後に話者交替が起こり、02316YF02の「衝突」に引き継がれている。その結果、「単純に衝突」という一文が構成されている。これは「です・だ」が省略された文である。ここでは、話者交替の直前に感動詞類「なんか」「あの一」とポーズがこの順に挿入されている。従って、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(20) Adv なんか あの一 p | N。

次に、(21)を挙げる。

- (21) 09639 YF05: 前とか9、10空いたくない↑
09640 YF07: あったあった。なんか、めっちゃ早く帰れるけど、{うん} 逆に、なんか、
どうなんやろう。
09641 YF05: 9、10ある日が さー (0.4) なんか
09642 YF07: ない。
09643 YF05: [ホームルームくらいしかなく] ない。

(21)では、09641YF05の「9、10ある日」の後に話者交替が起こり、09642YF07の「ない」に引き継がれている。両話者の発話が繋がると、「9、10ある日がない」で一文となっている。ここでは、「～日」の直後に、間投詞「さー」、ポーズ、感動詞類「なんか」がこの順に挿入されている。そして、その後に話者交替が起こっている。従って、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(22) ... Nが さー p なんか | ない。

次に、(23)を見てみよう。

- (23) 15018 YF10: で、なんか、話している人の[うん] なんか、初対面の人はどうかみたい。
初対面だけと知人だけとどう違うかみたい。
15019 YF12: あー、そういうこと ね (0.5) (hh)
15020 YF10: やっているらしい。
15021 YF12: ええ、すげー。面白い。

(23)を見ると、15019YF12の「～こと」の後に話者交替が起こり、15020YF10がYF12の発話を引き継いでいる。「そういうこと、やっているらしい」という一文が構成されている。「こと」は対格(ヲ格)が省略された。ここでは、話者交替の直前に終助詞「ね」、ポーズ、笑いが順に挿入されている。従って、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(24) ... N ね p (hh) | Vているらしい。(ヲ格)

次に、(25) を挙げる。

- (25) 10326 OF03: もう一生懸命毎日水やっても、もう全然茂ってなくて、あ、もう11月まで、
(hh) もう、何個かできとけばいいなって。もう、日頃はいいんですよ。
 もう自分が食べれんやったら食べれんやったでね。
- 10327 YF08: そうですね。[今回は]
- 10328 OF03: [でもね], ラオスはね (0.5) (hh)
- 10329 YF08: 期待を背負ってますもんね。
- 10330 OF03: そう。ラオスの留学生がすごいきれしみにしてて。(hh)なんかね、1個がね、
 2000円ぐらいするんだって。

(25) では、10328OF03の「ラオスは」の後に、10329YF08の「期待を背負ってますもんね」が発話され、引き継がれている。両発話が結びつくと、「ラオスは期待を背負ってますもんね」で一文となっている。ただし、「は」の直後に間投詞「ね」、ポーズ、笑いがこの順に挿入されている。その後に話者交替が起こっている。従って、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(26) Nは ね p (hh) | ...Vますもんね。

以上、話者交替前に挿入要素が現れる会話データを観察した。その結果、挿入要素は、一つだけでなく、複数生起することができることが分かった。

5.2.2. 話者交替後の場合

このパターンでは、話者交替前に何の挿入要素も入らず、話者交替後のみに挿入要素が現れる。まず、話者交替後に感動詞類「あー」が生起するデータとしては、(27) が挙げられる。

- (27) 10009 OF03: あの一、卒業生の {ああ} さよならパーティーも、あの一、地域交流センターであって。
- 10010 YF08: それも行かれたんですね。
- 10011 OF03: はい、はい。
- 10012 YF08: 私、あれですよ、なんか、太鼓↑、アフリカのジャンベ
- 10013 OF03: あー行きました。行きました。

(27) を見ると、10012YF08の「アフリカのジャンベ」の後に話者交替が起こり、10013OF03がYF08の発話を引き継いでいる。その結果、「アフリカのジャンベ行きました」という一文が形成されている。「アフリカのジャンベ」は二格の機能を持っている。ここでは、話者交替の直後

に感動詞類「あー」が挿入されている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(28) ... N | あー V ました。(二格)

次のデータ (29) は、話者交替後のみに挿入要素が現れるが、2つの感動詞類が生起するものである。

- (29) 12275 YF08: 速いね、4時間、なんか、大分に、ぷりんどらってというお菓子があるの知るとる↑
由布院のスイーツでぷりんどらって
12276 YF09: あ なんか 聞いたことあります。
12277 YF08: だら焼きの中に、プリンが入っとるんよね、[あんこみたいに]。

(29) では、12275YF08の「～ぷりんどらって」の後に話者交替が起こり、12276YF09の「聞いたことあります」に引き継がれている。両話者の発話が繋がると、「由布院のスイーツでぷりんどらって聞いたことあります」で一文となっている。ここでは、話者交替の直後に感動詞類「あ」と「なんか」がこの順で挿入されている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(30) ... N って | あ なんか | ... V ます。

以上、話者交替後に挿入要素が現れるパターンでは、話者交替後に1つの挿入要素が現れるものと、2つの挿入要素が現れるものしか観察されなかった。

5.2.3. 話者交替前後の場合

これは話者交替前に何らかの挿入要素が現れ、そして話者交替が起こり、話者交替後にも何らかの挿入要素が現れるというパターンである。まず、話者交替前にポーズが挿入され、話者交替後に感動詞類が挿入される会話データ (31) が挙げられる。

- (31) 18036 YM03: 情報だけだけど、物理の授業を取ってるのは {うん} あの一、もういないかな。
18037 YM01: マジで。なんで↑
18038 YM03: あ、でも、あっ、熱力学はなんか、テストがないから、簡単に単位とれるっていうことで、そういうのは(0.5)
18039 YM01: あ 単位目当てで来る人もいる。
18040 YM03: いる。うん、取る人もいる。

(31) を見ると, 18038YM03の「～そういうのは」の後で, 18039YM01の「単位目当てで来る人もいる」に引き継がれている。両話者の発話が組み合わせり、「そういうのは単位目当てで来る人もいる」で一文となっている。ただし、「そういうのは」の直後にポーズが挿入されている。そして、話者交替が起こった後、感動詞類「あ」が挿入されている。従って、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(32) ... のは p | あ ...Vる。

次の会話データ (33) も, (31) と同様のパターンであるが, 話者交替後に「あー」が挿入される場合である。

- (33) 07374 OF01: そうですね, 菊屋横丁とかね。
 07375 YF05: そうです。なんか, 白壁が(0.4)
 07376 OF01: あー 素敵ですね。
 07377 YF05: 広がってて {うん}, 自分のあの一高校の周りも {ああ} 全部城下町で。

(33) を見ると, 07375YF05の「白壁が」の後で, 07376OF01の「素敵ですね」に引き継がれている。2つの発話が繋がると、「白壁が素敵ですね」という一文が構成されている。ここでは、ポーズの直後に話者交替が起こり、その後に感動詞類「あー」が挿入されている。従って、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(34) ... Nが p | あー Adjですね。

次も同様であるが、感動詞類「あっ」が生起する会話データである。(35) が挙げられる。

- (35) 08164 YF06: でも, TOEICとか全然。何点↑
 08165 YF05: えっ↑ (hh)
 08166 YF06: (hh)
 08167 YF05: なんかでも 学部を卒業するための条件が(0.5)
 08168 YF06: あっ すごい高いんだよね。
 08169 YF05: 730点。
 08170 YF06: やばっ! ほぼ満点じゃん。

(35) を見ると, 08167YF05の「～条件が」の後で, 08168YF06がYF05の発話を引き継いでいる。その結果、「学部を卒業するための条件がすごい高いんだよね」で一文となっている。ここでは、「～条件が」の直後にポーズが挿入され、その後に話者交替が起こっている。次に、感動詞類「あっ」が挿入されている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(36) ... Nが [p] | [あっ] ... Adjんだよね。

次の会話データも (35) と同様のパターンであるが、話者交替後の感動詞類が異なっている。(37) が挙げられる。

- (37) 07384 OF01: 明木って、今萩市ですけど。
07385 YF05: あ、[昔は]
07386 OF01: [昔は] 阿武郡 ↑
07387 YF05: あ、昔は多分旭村。
...
07394 OF01: うんうんうん。
07395 YF05: 阿武だけが (1.0)
07396 OF01: うん残っていますよね。 (hh)
07397 YF05: (hh)
07398 OF01: なぜかしら残っていますよね。 (hh)

(37) では、07395YF05の「阿武だけが」の後で、07396OF01の「残っていますよね」に引き継がれている。その結果、「阿武だけが残っていますよね」で一文となっている。ここでは、ポーズの直後に話者交替が起こり、その後に感動詞類「うん」が挿入されている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(38) Nだけが [p] | [うん] Vますよね。

以上、話者交替前にポーズが、話者交替後に感動詞類が現れる会話データを観察した。「あ」「あー」「あっ」「うん」のように、話者交替後に現れる感動詞類のバリエーションは様々である。次に、話者交替前後に非言語表現が生起する会話データを観察する。(39) を見てみよう。

- (39) 07141 OF01: やっぱり時事問題があると、あ難しいですね。
07142 YF05: 難しいですよ。(hh)
07143 OF01: 単語自体が難しい。聞いたことないから。日本語訳も (hh) 日本語訳の言葉も (0.3)
07144 YF05: (hh) 難しい。 (hh)
07145 OF01: 自分でこー、ね、身近ではない。(hh)

(39) を見ると、07143OF01の「～言葉も」の後で、07144YF05の「難しい」に引き継がれている。両話者の発話が組み合わさり、「日本語訳の言葉も難しい」という一文が構成されている。ただし、「～言葉も」の直後にポーズが挿入されてから、話者交替が起こっている。その次に、笑いが現れている。従って、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(40) ... Nも p | (hh) Adj。

次は、話者交替前と話者交替後に笑いがそれぞれ現れる会話データである。(41)が挙げられる。

- (41) 14269 YF10: なんか、運転、{うんうん} 運転。
 14270 YF11: あ、なんか、ルート66みたいなやつか {そうそう} アメリカでいう。いや、しんどいわ。
 14271 YF10: (hh)
 14272 YF11: そんな楽しめない。ドライブを(hh)
 14273 YF10: (hh) 確かにやったことはないです
 ね。
 14274 YF11: うん。えー、そうだったんだね。…

(41) を見ると、14272YF11の「ドライブを」の後で、14273YF10がYF11の発話を引き継いでいる。2つの発話が繋がると、「ドライブを確かにやったことはないですね」で一文が構成されている。ここでは、「～を」の直後に、笑いが挿入され、その後に話者交替が起こっている。その次に、笑いが現れている。従って、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(42) ... Nを (hh) | (hh) ...ないですね。

次に、話者交替前後に3つの挿入要素が現れる会話データを挙げる。(43)、(45)を見てみよう。

- (43) 16222 OM01: 例えば、LINEなんかプリペイド式っていうかしら↑
 16223 YM01: はい、そういうの。
 16224 OM01: うん。ラインのウォレットって(0.5)
 16225 YM01: あー (0.4) ありますね。
 16226 OM01: ね。
 16227 YM01: あ、これなら、そうですね、[あの一] …

(43) を見ると、16224OM01の「～ウォレットって」は、16225YM01の「あります」に引き継がれている。その結果、「ラインのウォレットってありますね」で一文となっている。ここでは、「って」の直後にポーズがあり、次に話者交替が起こっている。その後に感動詞類「あー」及びポーズがこの順に挿入されている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(44) ... Nって p | あー p Vますね。

次に、(45)を見られたい。

- (45) 01470 YF01: [そう] そうなんですか。地図とか見るとすごいところにある。
01471 OF01: アラスカと、ハワイ(0.6)
01472 YF01: (hh) (1.1)行かれていますね。(hh)
01473 OF01: 今度韓国行くんです。初めて行くんです。近いのに行っていない (hh)

(45)を見ると、01471OF01の「～ハワイ」の後で、01472YF01の「行かれていますね」に引き継がれている。その結果、「アラスカと、ハワイ行かれていますね」という一文が構成されている。両発話は「二格」の関係で繋がっている。ここでは、ポーズの直後に話者交替が起こっている。そして、話者交替の直後に笑い及びポーズがこの順に挿入されている。従って、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

- (46) ... N p | (hh) p Vますね。 (二格)

次の会話データ(47)も話者交替場所に3つの挿入要素が現れるものであるが、話者交替前に2つの挿入要素が生起するものである。

- (47) 24130 YM09: 阿武監督がね {うん} 今あの一、シンウルトラマンってあるじゃん、映画。
24131 YM07: あ一。
24132 YM09: あれ阿武さんが脚本で見たいなーと思っとる。
24133 YM07: あれおもしろいかな。なんか {うん} シンゴジラとか さ (0.3)
24134 YM09: あ一あるやん。
24135 YM07: あれ一個も見たことないんよね。

(47)を見ると、24133YM07の「シンゴジラとか」の後で、24134YM09がYM07の発話を「あるやん」に引き継いでいる。両発話が組み合わせり、「シンゴジラとかあるやん」で一文が構成されている。ここでは、「シンゴジラとか」の後に感動詞類「さ」及びポーズが挿入され、その直後に話者交替が起こっている。そして、その直後に感動詞類「あ一」が続いている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

- (48) Nとか さ p | あ一 ...Vるやん。

最後に、話者交替場所に4つの挿入要素が現れるものを観察する。まず、(49)が挙げられる。

- (49) 20650 YM05: 帰国子女的な。
20651 YM04: あ一確かになるほど。被れて。
20652 YM04: そうそう、プライド、プライド持って帰ってきます、日本に (hh)。
20653 YM05: ベトナムも (hh)

- 20654 YM04: ベトナムは(hh)ベトナム被れ(hh)。ベトナムは多分プライドが(0.5)(hh)
 20655 YM05: うん(0.2)ちょうどいいぐらい。
 20656 YM04: そうですね。

(49)を見ると、20654YM04の「ベトナムは多分プライドが」の後で、20655YM05がYM04の発話を引き継いでいる。両話者の発話が組み合わさると、「ベトナムは多分プライドがちょうどいいぐらい」で一文となっている。ここでは、「～プライドが」の直後にポーズと笑いが挿入され、その直後に話者交替が起こっている。そして、話者交替の直後に感動詞類「うん」とポーズが挿入されている。従って、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(50) ... Nが p (hh) | うん p ... Adjぐらい。

次の(51)も、(49)と同様である。

- (51) 20321 YM05: ま、無理やり、ちょっと {うん} 無理やりやっているんで、{そう} 数学やっている人からしても、あれは(0.4)うー
 20322 YM04: (hh) うん ちょうど違うんですね。
 20323 YM04: 意味。
 20324 YM05: 意味ないかなあっていうね、あんまり。(hh)

(51)を見ると、20321YM05発話の「あれは」の後で、20322YM04の発話に引き継がれている。その結果、「あれはちょっと違うんですね」で一文が構成されている。ここでは、「あれは」の直後に、ポーズと感動詞類「うー」が挿入され、その直後に話者交替が起こっている。次に、笑いと感動詞類「うん」が続いている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(52) ... Nは p うー | (hh) うん ... Vるんですね。

次の会話データ(53)も話者交替場所に4つの挿入要素が現れるが、(51)と違い、話者交替前に3つの要素が挿入されるものである。

- (53) 05261 YF04: やね、見ててね、すごいって思うんだけどね、なんか、ヨーロッパのほうの絵とか、時に、{うん} なんか、油絵ですごい繊細というか、
 05262 YF02: うん。
 05263 YF04: きれいに写実的にかいているから、うわーすごいなーと思う。
 05264 YF02: すごいですね。
 05265 YF04: うん。ヨーロッパが油絵を描いている頃には日本の江戸時代には(0.6)

あの一 (hh)

- 05266 YF02: (hh) 細い。
 05267 YF04: (hh) 細い線で (hh)。
 05268 YF02: 平面的ななんか。(hh)
 05269 YF04: (hh) 風刺画的な感じで描いてたけどね。

(53) を見ると、05265YF04の「～には」の後で、05266YF02の「細い」に引き継がれている。その結果、「ヨーロッパが油絵を描いている頃には日本の江戸時代には、細い」で一文となっている。ヨーロッパの写実的で繊細な描写と比較している文脈と05267YF04の発話「(hh) 細い線で (hh)」から考えると、「日本の江戸時代には」と「細い」の間に、「絵の線が」の主格（ガ格）が省略されたように見える。従って、ここでは一文であると考えられる¹¹。「～江戸時代には」の直後には、ポーズ、感動詞類「あの一」、笑いの3つの要素がこの順に挿入されている。この直後に話者交替が起こり、次は笑いで始まっている。そこで、この引き継ぎが起こった統語環境を次のように定式化しておく。

(54) ...Nには p あの一 (hh) | (hh) Adj.

以上、引き継ぎが起こる位置(話者交替場所)に現れる挿入要素に関する会話データを観察した。

6. まとめ

まず、前節の分析に基づき、話者交替場所に現れる挿入要素による引き継ぎのパターンを整理し、【表1】に示す。

【表1】挿入要素の現れ方による引き継ぎのパターン

パターン	定式化
話者交替場所に何の挿入要素も現れない	(6) ...Vに Vないしね。 (8) ...Nは p Vる。
話者交替前に挿入要素が現れる	(10) Nは p なんっていう ...Vそう。
	(12) ...Nは あの一 p Nです…。
	(14) Nは ま一 p ...N。
	(16) ...Nも さ一 p Adj↑
	(18) ...Nを ね p Vたいですね。
	(20) Adv なんか あの一 p N。
	(22) ...Nが さ一 p なんかない。
	(24) ...N ね p (hh) Vているらしい。(ヲ格)
話者交替後に挿入要素が現れる	(26) Nは ね p (hh) ...Vますもんね。 (28) ...N あ一 Vました。(ニ格)
	(30) ...Nって あ なんかが ...Vます。
話者交替前後に挿入要素が現れる	(32) ...のは p あ...Vる。 (34) ...Nが p あ一 Adjですね。 (36) ...Nが p あっ ...Adjだよね。

(38) Nだけが	p		うん	V	ますよね。		
(40) …Nも	p		(hh)	Adj.			
(42) Nを	(hh)		(hh)	…ないですね。			
(44) …Nって	p		あー	p	V	ますね。	
(46) …N	p		(hh)	p	…V	ますね。(二格)	
(48) Nとか	さ	p		あー	…V	るやん。	
(50) …Nが	p	(hh)		うん	p	…Adj	ぐらい。
(52) …Nは	p	うー		(hh)	うん	…V	るんですね。
(54) …Nには	p	あの一	(hh)		(hh)	Adj.	

【表1】を見ると、話者交替場所には様々な挿入要素が現れることが明らかである。特に、話者交替前に現れる「p (ポーズ)」は、量的に最も多い。そして、量的に次に多いのは話者交替前の「p」の直前に現れる「感」、及び話者交替後の「感」である。会話データの量が不十分であることから、単純に量的には計れないが、おおよそ次のような相対的な差がある。

- (55) $\boxed{p(\text{話者交替前})}$
- > $\boxed{\text{感(話者交替前のpの直前)}} = \boxed{\text{感(話者交替後)}}$
 - > $\boxed{(hh)(\text{話者交替前})} = \boxed{(hh)(\text{話者交替後})}$
 - > $\boxed{\text{感(話者交替前のpの直後)}} = \boxed{p(\text{話者交替後})}$

(55)は、実際の会話データに現れる頻度ではなく、【表1】のパターンの頻度である¹²。ここでは、最初に記載している挿入要素の方が、相対的に頻度が高い。「=」は同じ頻度であることを表す。ただし、現時点では、(55)に何らかの規則性は見つかっていない。

また、挿入要素が何も現れない場合もあることから、挿入要素は随機的 (optional) なものであることは間違いない。しかし、ほとんどの場合、引き継ぎ現象には挿入要素が必要であると言えよう。すなわち、「挿入要素は引き継ぎ現象を起こしやすくしている要因となっている」ということは、少なくとも仮定できるのではなからうか。言うまでもなく、挿入要素があれば、必ず引き継ぎ現象が起こるわけではない。

さらに、どのような種類のものであってもよいというわけではないようである。引き継ぎにおける挿入要素は多様であるが、偶発的に現れるのではなく、特定の順序で現れている。【表1】をまとめると、引き継ぎにおける挿入要素の現れ方は次のようになっている。

- (56) … 感 p 感 (hh) | (hh) 感 p …。

ここで注目したいことは、挿入要素が話者交替場所を中心に対称的 (symmetric) に現れるように見えるということである。もちろん、(56)は完全な対称性は示していない。なぜなら、話者交替後のpの直後に「感」がないからである。ただ、現時点では、会話データが量的に不足しているために、たまたまそれが現れていないだけかもしれない。そこに「感」が生起する可能性は予測できるだろう。

そこで、以上の性質を次のように定義しておこう。

- (57) a. 挿入要素は引き継ぎ現象を起こしやすくする要因となっている。
- b. 引き継ぎ現象において、挿入要素の統語的生起位置は、話者交替場所を中心とした対称性を示す。
- c. この対称性が引き継ぎ現象を促進する要因となっている。

しかし、(57c)にある、この対称性がなぜ引き継ぎ現象を起こしやすくする引き金になっているのかについては、現時点では明らかになっていない。そもそも、この問題は話者交替の性質である可能性も考えられる。ひょっとすると、無標 (unmarked) の話者交替 (話し手の発話が文として完了した後に、聞き手の発話が始まるもの) においても、同じ対称性が見られるのかもしれない。いずれも今後の課題である。

また、仮に、(55)と(56)に関連があるとして、結び付けて考えたとしても、量的には対称的にはなっていない。単に現在得られているパターンの種類が少ないだけか、それとも対称性以外の性質が隠れているのかもしれない。

7. 今後の課題

本稿の記述には、6節で議論した理論上の問題点の他にも、様々な個別の課題が残っている。

まず、本稿では、挿入要素同士の共起関係については議論されていない点が挙げられる。例えば、【表1】では、感動詞類「さー」とポーズが共起していることが観察された。しかし、会話データの不足のため、明確な関係は捉えることができなかった。

また、本稿では「ね」が間投詞として扱われているが、日本語において「ね」は相手に確認を求めるといった機能を持っている。この点から考えると、(2)で言うところの話者Aが自身の発話を終了し、相手に発話順番(ターン)を譲るサインとして機能する可能性があるのではないだろうか。ただ、このように仮定すると、挿入要素として捉えることができなくなるかもしれない。「ね」をどのように捉えるかについては、「さー」も含めて、さらなる検証が必要である (cf. 榎本2009)。

さらに、「なんか あの一」、「あ なんか」のような挿入要素は2つずつの感動詞類が連続して現れている ((20)と(30)を参照)。この二連鎖感動詞類に関する会話データは、現時点では少ないため、今後の研究においても検討の余地がある。

最後に、話者交替場所に挿入要素が現れても引き継ぎ現象が起こらない会話データが観察されるという問題についても述べておく。例えば、(58)が挙げられる。

- (58) 16251 YM01: なんかも、Youmetownとかでも、{うん} あの一、レジのおばちゃんからよくポイントカード作ってないから“もったいないですね”と怒られるんですけど、(hh) もう、なんか、ただでさえそんな状況なのに、(hh) こんなのは (hh) (0.2)

16252 OM01: ポイントカードはややこしいよ。

(58) では、YM01の「こんなのは」の後に、話者交替が起こり、次の話者OM01の発話「ポイントカードはややこしいよ」が続いているが、両発話が繋がっても、一文とはならない。すなわち、引き継ぎ現象は起こっていない。ここでは、話者交替場所に笑いとポーズがこの順に挿入されているにもかかわらず、引き継ぎ現象が起こっていない。この理由が、単に(57)の生起順序に違反しているからか、それとも「一文が構成される」という条件の不明瞭さからか、あるいは引き継ぎ現象の生起の随意性に起因するものなのか、現時点では不明である。これについても、今後の課題として更に検討していきたい。

8. おわりに

本稿では、話者交替場所に現れる挿入要素に焦点を当て、単文レベルにおける引き継ぎ現象のパターンを整理・分析した。その結果、挿入要素の統語的生起位置、及びそこに現れる対称性という性質を仮定した。そして、この対称性こそが引き継ぎ現象の起こりやすさの要因になっているのではないかという仮説を立てた。

しかし、会話データの不足のため、検証が十分にされたわけではない。それは、対象とする会話データの種類に関しても同じである。今回は、単文レベルを対象としたが、収集した会話データの中には複文レベルのものも存在している。この場合、同様の仮説を立てることができるかどうか検討すべきである。

また、本稿では二人会話を対象としたが、多人数会話における引き継ぎ現象についても観察すべきである。話者交替が複雑であるだけに、同様の引き継ぎ現象が見られるかどうか、興味深い点である。

さらに、日本語の会話データだけではなく、他の言語の会話データにも目を向けるべきであろう。引き継ぎ現象が日本語と同じ仮説によって動いているのか、それは言語普遍的 (language-universal) なものであるのかどうかなど、様々な課題が考えられる。

今後は、会話データを質・量ともに拡大し、引き継ぎ現象を厳密に記述していく。

【参考文献】

- 宇佐美まゆみ (2006) 「話し手と聞き手の相互作用としての「共同発話文」の日英比較: 「共話」, 「Co-construction」現象の再検討」『高見澤孟先生古希記念論文集』(高見澤孟先生古希記念論文集編集委員), pp. 103-130
- 榎本美香 (2009) 『日本語における聞き手の話者移行適格場の認知メカニズム』ひつじ書房
- 串田秀也 (2002) 「統語的単位の開放性と参与の組織化(1)―引き取りのシーケンス環境―」『大阪教育大学紀要第Ⅱ部門』50(2), pp.37-64
- 串田秀也 (2006) 『相互行為秩序と会話分析: 「話し手」と「共-成員性」をめぐる参加の組織化』世界思想社
- Sacks, H. Schegloff, E. A. & Jefferson, G (1974) *A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation*. *Language*, 50(4), pp.696-735 (西阪仰訳 (2010) 「会話のための順番交替の組織―最も単純な体系的記述」『会話分析基本論集 順番交替と修復の組織』世

界思想社, pp.5-153)

陳力 (2016) 「インタビューの応答途中におけるインタビュアーの発話についての一考察：テレビ番組のインタビューを対象として」『地球社会統合科学研究』5, pp.55-64

中井陽子 (2008) 「言語・非言語行動によるターンの受け継ぎの表示」『早稲田大学日本語教育研究』3, pp. 23-39

仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房

Hayashi, M. (2003) *Joint Utterance Construction in Japanese Conversation*. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins

林誠 (2017a) 「発話順番の構築」『会話分析入門』串田秀也ほか編, 勁草書房, pp.145-168

林誠 (2017b) 「会話におけるターンの共同構築」『日本語学』36(4), pp.128-139

平本毅 (2017) 「順番交替組織」『会話分析入門』串田秀也ほか編, 勁草書房, pp.118-144

広実義人 (1994) 「知覚上の発話速度に及ぼすポーズ数の影響」『音声学会会報』205, 日本音声学会編, pp.63-65

水谷信子 (1993) 「「共話」から「対話」へ」『日本語学』12(4), 明治書院, pp.4-6

【謝辞】

この研究は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST次世代研究者挑戦的研究プログラム、JPMJSP2111）の支援を受けました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

また、調査を実施するにあたり、様々な方々からのご協力とご支援を賜りました。皆様に心より感謝申し上げます。

なお、本研究については、「国立大学法人山口大学における人を対象とする一般的研究に関する承認」（管理番号：2022-014-01）を得ています。

【注】

¹ 「移行関連場所」（中井 2008）、「話者移行適格場」（榎本2009）、「移行適切場」（平本 2017）とも訳されている。

² 「共同発話構造」（陳 2016）とも訳されているが、林（2017b）の“co-construction”（共同構築）の訳語を参考に「共同発話構築」と訳した。

³ 串田（2002:60）が使用している記号は次の通りである。（数字）は沈黙の秒数を示す。ごく短い沈黙は（.）で示す。「？」は直前部分の末尾が上昇調の音律を示す。

⁴ 串田（2006:127）の訳語である。

⁵ Hayashi（2003）では、“co-participant completion”を構成する先行発話は“ongoing utterance”，後続発話は“completing utterance”と呼んでいる。

⁶ 林（2017b:135）の訳を用いた。

⁷ 後続発話が「が」や「だけ」などの助詞で始まり、先行発話と結びつき一つの発話を指す。日本語の助詞は英語“postposition”（後置詞）に相当す

るため、ここでは、林（2017a）を参考に「助詞で始まる発話」と訳した。

⁸ 串田（2006:163）の訳を用いた。

⁹ (3) と (4) における記号の説明は4節を見られたい。

¹⁰ コーパスを利用しない理由には次の2つがある。1つ目は、コーパスに同じような話者設定を持つ会話データが見られないことである。本研究では、世代・性別・親疎関係が引き継ぎ現象に影響を及ぼすかどうかという観点から、「初対面の世代別（20代と60代）」「初対面の同世代（20代）」「友人同士（20代）」という3つの会話場面を設定している。会話調査では、例えば、一人の話者Aがそれぞれ異なる3名の話者B, C, Dに対して会話をすることがあるが、コーパスにはそういう会話データが見当たらない。その理由は、異なる調査条件設定を持つ会話データが混在することを避けるためである。2つ目は音声に関する問題である。コーパスには、ポーズなどの挿入要

素が記載されていないものがほとんどである。また、記載されていたとしても、本研究で対象としている挿入要素がすべて記載されていない場合もある。音声が付属していれば、挿入要素の有無が確認できるが、そのようなコーパスはごくわずかしかない。以上2つの理由により、本研究では、調査条件設定を統一したうえで、筆者自らが収集したものを使用する。

¹¹ 3節では、話し手の発話文において、格成分が省略された場合には、「必ず聞き手が発話することになる」と述べた。05266YF02では「絵の線が」が省略されており、05267YF04が「細い線で」を発話していることから、ここでも同様のことが言えるかと考えられる。ただ、この省略という言語現象がどのように引継ぎ現象と関係するのかについては、まだ明確になっていない。

¹² 収集したデータの中では、単文レベルにおける引き継ぎの会話用例数は全体で計124件あり、その内訳は次のようである。①話者交替場所に何

の挿入要素も現れない」は1件のみ観察された。②「話者交替場所に挿入要素が現れる」は71件である。③「話者交替後に挿入要素が現れる」は4件であり、感動詞類と(hh)が生じた。④「話者交替前後に挿入要素が現れる」は48件である。各パターンの挿入要素の割合を合算すると、「p(話者交替前)」は113件で現れ、総数の9割を占めている。次に「感(話者交替前のpの直前)」は32件であり、総数の26%を占めている。また、「感(話者交替後)」は37件で、総数の30%を占めている。「(hh)(話者交替前)」は15件、「(hh)(話者交替後)」は13件であり、ほぼ同じである。「感(話者交替前のpの直後)」は8件であり、総数の10%未満である。最後に、「p(話者交替後)」は10件で、「感(話者交替前のpの直後)」とほぼ同数の割合となっている。この結果から、各パターンの全体の頻度も(55)に相当していると言える。